

ガイダンスカリキュラムを担う「ガイダンスカウンセラー」の仕事

ー スクールカウンセリング推進協議会による新資格創設を見据えてー

企画・司会：八並光俊（東京理科大学教授・文部科学省視学委員）

シンポジスト：深美隆司（松原市立第七中学校教諭）

石黒康夫（世田谷区立千歳中学校校長）

坂本良二（高崎市立中学校 SC，開智中学高等学校 SC）

伊佐貢一（上越教育大学准教授）

進行：東 則孝（図書文化社出版部）

1. 企画趣旨

「ガイダンスカリキュラムの広がり」と展望(2008)、「ガイダンスカリキュラムの授業と工夫」(2009)に続く第3弾。

《現況》

(1) ガイダンスカリキュラム実践の拡大

川崎市や横浜市で独自のプログラムが作成されるなど、各地でガイダンスカリキュラム（以下 GC）の実施が広がっている。また高知市では7年にわたる取組みの効果として不登校児童数が半減するなど数値として表れている。

(2) 文部科学省の助成事業

NPO 日本教育カウンセラー協会は、文科省の平成 22 年度「生徒指導・進路指導総合推進事業」で「問題行動等への対応における NPO 等の活用」に取組み、ガイダンスカリキュラムの実践研究に取り組んでいる。熊谷市の1中学校区で2小学校と1中学校、そして世田谷区立千歳中学校。

(3) 「ガイダンスカウンセラー」資格の創設

スクールカウンセリング推進協議会（以下、SC 推進協議会）が新資格「ガイダンスカウンセラー（以下 GCo）」の創設に動き始めている。GCo の重要な仕事の一つに GC の実施が想定されている。

《ねらい》

- ① GC を行う GCo の仕事や能力を提示する。
- ② GCo を主題とする初の公開会議で推進を支援する。

2. シンポジウムの進行

(1) 趣旨説明：八並光俊（20分）

『ガイダンスカウンセラー』資格とその中核業務としてのガイダンスカリキュラム

(2) 話題1：校内担当者として 深美隆司（20分）

「定着させるためのプログラムマネジメントの重要性」

(3) 話題2：管理職として 石黒康夫（20分）

「GC と学校経営を連動させるリーダーシップ」

(4) 話題3：スクールカウンセラーとして 坂本良二（20分）

「プログラム作りと学校へのコンサルテーションの実際」

(5) 話題4：外部コンサルタントとして 伊佐貢一（20分）

「学校の実態に応じた GC とその教育効果」

(6) 全体での質疑・討議 司会：八並光俊（20分）

3. 趣旨説明：『ガイダンスカウンセラー』資格とその中核業務としてのガイダンスカリキュラム

(1) SC 推進協議会

① 設立の目的

学校教育に役立つ「子どもたちの発達課題を解き成長を援助するスクールカウンセリング」を有効に機能させるために参加団体が協力する。発達課題とは、子どもたちの①学業、②人格形成・社会性、③進路、④健康面の発達を指す。これらに対して、すでに発生した問題に対する個別面接だけでなく、予防・開発的に、教室での集団指導や学校組織でのチーム対応、教師へのコンサルテーションなど多様な方法を用いて、学校教育の充実に資することをめざす。

② 参加学会・団体

SC 推進協議会は、平成 21 年 5 月 25 日に設立された。同協議会は、学会連合資格「学校心理士」認定運営機構／日本学校心理士会／日本学校教育相談学会／日本カウンセリング学会／日本キャリア教育学会／日本教育カウンセリング学会／日本生徒指導学会／NPO 日本教育カウンセラー協会／一般社団法人臨床発達心理士認定運営機構／日本臨床発達心理士会で構成される。

(2) GCo の定義

SC 推進協議会で合意された GCo の定義は次のとおり。

「ガイダンスカウンセラーとは、幼・小・中・高校・中等教育学校、特別支援学校、大学及び高等専門学校において、子どもの学習面、人格・社会面、進路面、健康面における発達を援助する専門家です。すべての子どもの発達課題に対する一次的援助サービス、苦戦している子どもの援助ニーズに応じる二次的援助サービス、不登校や発達障害などで特別な教育ニーズのある子どもに対する三次的援助サービスを、リーダーあるいはコーディネーターとして行います。さらに地域と連携して子どもたちの支援にあたるとともに、家庭の支援を行います。」

4. 話題1：校内担当者として「定着させるためのプログラムマネジメントの重要性～GC推進者としての課題～」

(1) GC の効果への確信

- ・さまざまな地域・学校園での GC 実施に対する効果

子どもや教員の変容, 学校の組織的・風土の変容

(2) GC 実施へのプロセス

- ・さまざまなグループアプローチからの内容の精査
実施時数と実施内容の確定
- ・効果測定
内容, 体制, 活用方法など
- ・教員の養成
GC 実施のためのスキル獲得
GC における授業の進め方とルールの確立
GC 以外の取組への波及 (教員のあり様として)

(3) 主に「いじめ・不登校等の未然防止」として

- ・校内体制の確立
早期発見・早期支援
- ・効果測定の活用
- ・関係諸機関との連携

(4) キャリア育成の観点で

- ・道徳の時間, 特別活動, 総合的な学習の内容との連携
- ・キャリア獲得のプロセスに人間関係づくりを

5. 話題2:管理職として「GC と学校経営を連動させるリーダーシップ」

本校では今年度より予防開発的な生徒指導を目指して全校で取り組んでいる。内容は3つの部分から構成され, GC はその中に位置付けている (下線部)。

(1) 認め合う心を育てる取り組み

主な内容は, 構成的グループエンカウンター(以下 SGE) とハートフル・ウィークの実施。SGE は学期ごとに計画を立て, すべての学級で実施している。また, 本校の取り組みを保護者にも理解してもらうために, 近隣の小学校 PTA との役員交流会や各学年の PTA 交流会でも教師がリーダーとなり SGE を実施している。ハートフル・ウィークは, 生徒が話をしてみたい先生と話をする教育相談週間。

(2) 生徒指導の指導体制と内容の整備

後追いの指導にならず, 意図的計画的に生徒を育てるには, 全校一致の指導体制や内容の明確化が大切。問題行動発生時の指導体制や日常的に何をどう指導するのかを明確にした「千歳中学校スタンダード」を作成し実践している。

(3) 生徒の活動

生徒会役員と校長や教師が話し合い, 生徒が望む学校像を明確にし, それを実現するルールを生徒会で作成した。「千歳中学校基本ルール」と名付け, 生徒総会で承認を得た。教師はそのルールを尊重し, 授業・行事・部活など学校生活の全場面で活用する。また, 全学年で道徳の時間を利用して基本ルールの理解を深める授業も行っている。

6. 話題3:スクールカウンセラーとして「プログラム作りと学校へのコンサルテーションの実際」

(1) 公立中学校での実践

①主な仕事内容は次のようなものである。

- ・生徒, 保護者に対する相談 ・教職員との情報交換, アドバイス等 ・教員研修の講師 ・学校保健委員会への助言, 講師など ・他機関との連携

②予防的・開発的な集団を対象にした取り組み

- ・1年生を対象にしたグループワーク, 関係づくり
- ・学校保健委員会でのストレスに関するアンケート, ストレスマネジメントについての講義など3年間継続。
- ・Q-U アンケートの活用:活用の仕方について教員研修→全校実施→結果をもとにコンサルテーション

(2) 私立中高一貫校での実践

①主な仕事は次のようなものである

- ・ワークショップ(授業) ・教職員との情報交換, アドバイスなど ・Q-U を用いたコンサルテーション
- ・生徒, 保護者への相談 ・他機関への紹介, 連携

②集団を対象にしたワークショップの実践

- ・中学 1,2 年対象, 年間 15 回, 体験学習を中心にして
- ・学年のテーマ 1 年「自分を知り, 仲間を知り, 協力し合う」 2 年「社会の中の自分を見つめる」
- ・基にした主な理論 ... サイコエジュケーション,SGE, 対人関係ゲーム, ソーシャルスキル教育, キャリア教育, ストレスマネジメント教育, 交流分析, 論理療法など

7. 話題4:外部コンサルタントとして「学校の実態に応じた GC とその教育効果」

学校規模のソーシャルスキル教育(以下 SSE) の必要性を感じ, 試行してきた。その過程を踏まえて, 学校のコンサルテーションを行っている。

(1) プログラムを作成し実施は学級担任に任せる段階

学級担任の取組に温度差が生じ, 成果に大きな影響を与えるという課題が生じる。

(2) 学校規模の SSE をシステム化する段階

- ① 実態把握(P) ② 実態の共有(E)
- ③ プログラムの作成(A) ④ 実施(C) ⑤ 評価(E)

(3) 学校規模の SSE 実践モデルを適用する段階

- ① ソーシャルスキルを学ぶ場
↓ 全校集会: 教示→モデリング→学級へ異動
↓ 学級: リハーサル→フィードバック
- ② ソーシャルスキルを定着させる場
現在行われている教育活動の中に流し込む工夫

(4) 家庭や地域との連携

学校だよりや公開授業, 学校評議委員の意見聴取

(5) 学校規模に応じた取組と成果(2年間の成果)

学級満足度(Q-U) が次のように変化した。小規模小学校: 44%→86, 大規模小学校: 63%→85%。

(6) 取組を継続させる工夫

- ・誰でも実施できるプログラム ・プログラムを複雑にしない ・職員研修の工夫・校内組織の見直し ・管理職のリーダーシップ ・行政や専門機関との連携

文献

- 八並光俊 2008 ガイダンスカリキュラムとは
- 八並光俊・國分康孝『新生徒指導ガイド』図書文化, 56-59
- 松原七中校区 研究開発のページ
<http://www.e-kokoro.ed.jp/matsubara/matsu7/08koukukenpat-su/koukuhyoushi.htm>
- GC のホームページ『ガイダンスカリキュラムの広場』
<http://www.toshobunka.jp/sge/sodateru/gc1.htm>
- 伊佐貴一 2008『「温かいメッセージ」のソーシャルスキル教育』明治図書